

(視聴覚)

課題解決に向けて調べ、考え、交流する、意欲的に学習する児童の育成 ～ I C T の活用を通じて～

大阪市立異南小学校

1. 研究主題設定の理由

本校では学校経営の重点を『人間性豊かな子どもの育成』とし、その具体的な方策の一つに「学ぶことの楽しさや、自ら課題を見つけ、解決することの喜びを体得できるようにする。」を掲げている。現代の社会で求められている資質を身に付けるとともに、意欲的に学習し、自ら課題を見つけて解決することができる児童を育成するためには、児童がコンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段に慣れ親しみ、適切に活用できるようにすることが重要である。そのためには、指導者がこれらの情報手段や視聴覚教材、教育機器などの教材・教具を適切に活用することが重要である。

そこで、児童自らが学ぶことの楽しさや課題を見つけ、学習課題を意欲的に解決することができるよう、研究主題を『課題解決に向けて調べ、考え、交流する、意欲的に学習する児童の育成～ I C T の活用を通じて～』とした。

2. 研究の主旨

本校で実施した I C T 機器の使用状況についてのアンケートによると、本校の児童は、約 40 % の児童がタブレット P C を「よく使うまたは使う」と回答しています。また、約 60 % の児童が家庭でスマートフォンを「よく使うまたは使う」と回答しています。このように本校では、児童の約半数が、家庭で I C T 機器をよく利用していることが分かりました。次に「学校生活や勉強についての児童アンケート」では、「自分たちで調べたり、考えたり、まとめたりする学習が楽しい」と答える児童は 75 % ほどでした。そこで、本校では、自分たちで調べたり、考えたり、まとめたりする学習に対しては苦手意識をもっている児童が多いという実態も浮かんできました。

そこで、昨年度導入されたタブレット P C を活用して、意欲的に調べたり、考えたり、まとめたりする児童を育成するために、I C T 機器を活用した指導法の研究に取り組んできました。

3. 研究の概要

研究の主題に迫るため、研究の視点を以下のように設定した。

視点① 学習活動を深めるための情報活用能力の育成

- I C T 活用スキルの到達段階一覧の設定
- 情報活用能力育成のベースとなる基礎的・基本的な技能の習得を図る。
- I C T 機器利用の必然性の検討
- タブレット P C を使うときは、どの学年でも利用についての約束を確かめるようにした。
- 低学年と 6 年生との交流授業の実施

視点② 教科学習における I C T の有効な活用

- 撮影してきた写真を大型ディスプレイに映し出してみんなで共有する。
- タブレット P C を持ち帰り、身近な場所にあることに気付くようにする。

- 前時までの学習内容を写真に残し、既習内容の確認をする。
- 書画カメラやタブレットP Cを活用して写真やノートなどを提示することで児童が自分の考えを表現する。

4. 研究の成果と今後の課題

(1) 研究の成果

- 低学年では、基礎・基本の技能を身に付けることができた。
- 高学年では、情報を取捨選択する技能や情報を読み取る力など、学習活動を深めるための技能を身に付けることができた。
- 導入の段階で、大型ディスプレイで映像資料を見ることで、学習の見通しをもつことができた。
- 導入の段階で、児童の興味関心を高めることができた。
- 考える段階で、グラフや図表の見せ方を工夫することで、児童の意欲を高めたり、理解を深めたりすることができた。
- 交流の段階で、I C T機器を活用することで聞き手が具体物を見て説明を聞くことができ、全員で意見の共有がしやすくなった。
- I C T機器を活用した学習では、児童の意欲が高まったり、理解が深まったりした。

(2) 今後の課題

- I C T機器の活用を目的にするのではなく、学習目標を達成するためにI C Tを活用するという基本を忘れないこと。
- ネットワーク環境の整備
- バックアップ体制の構築
- 従来型の学習と、I C T機器のよさを活用した学習をうまく組み合わせた、効果的な教育活動の研究
- 最新の社会動向キャッチアップした指導方法の研究